

新人職員一泊宿泊研修について



2024年 6月29日(土)
薩摩川内市消防局

3階病棟 坂本

新入職者一泊宿泊研修に参加し、たくさんの学びや経験を得ることができました。他職種の新入職者との交流を通じて、違う視点や専門性についても知る事ができました。

今回の研修で、災害など緊急時の対応について見直し、日頃から意識していきたいと思いました。また他職種と関わり、違う視点やアプローチ方法を取り入れ、今後もチームワークの価値を深く理解し、異なる専門職との連携を図れるよう努力していきたいと思いました。



日時：6月28日(金)～29日(土)
場所：川内原子力発電所展示館
薩摩川内市消防局 他

HCU副師長 松下

新人職員（看護部、薬剤部、リハビリテーション部 含め）13名と看護部から3名が引率し、新人一泊研修へ参加しました。

薩摩川内市にある施設見学を通して、当院の一職員としての自己の役割を考え、行動に繋げるよい機会となったのではないのでしょうか。同期の大切さを感じ、共に頑張っていたきたいと思えます。

4階西病棟 田平

看護部の新卒入職者だけではなく、他職種との関わりを通じて、様々な視点や仕事内容の専門性について学びを深めることが出来ました。日頃から様々な視点を柔軟に取り入れ、連携を図る事が出来るようにコミュニケーションを密に図っていききたいと思うと同時に、チームワークとは何かを考えながら働いていきたいと思いました。

<薩摩川内市消防局防災研修センターにて>



SSプラザにてグループワーク活動



原子力発電所展示館内見学



救急車内の見学



暴風体験

3階病棟 古川

今回の一泊研修に参加して、他部署・他職種職員との関係を築くことができたことで、連携がスムーズになり、より他職種間の役割を理解することができました。知識と技術だけでなく、新しい同僚との信頼関係を築く貴重な機会となり、院外での活動を通じてリフレッシュし、仕事のモチベーションも向上しました。今後は、研修で得た知識と経験を実践に活かし、患者の安全を第一に考えた看護業務を遂行していきたいと思えます。

回復期リハビリテーション病棟 江口

今回の研修では、多職種の方や他部署の看護部の方と交流するだけでなく、グループワークにてマンダラートを活用し、一年を通して患者さんから信頼される医療従事者になるため、具体的にどのような意識をもって業務に励むか考えることができました。環境を良くする、人間関係、専門性、信頼を得る、待遇、知識、技術、人間性と大きな8つの柱を達成するために作成したマンダラートは、ロッカーに貼り毎日みることが出来るようにすることで意識し、日々業務を行っていききたいと思えます。

令和6年度 看護研究の取り組みについて



【外 来】

看護研究テーマ「外来看護師による医療支援に向けて～患者の声を届けるために外来看護師ができること～」
外来看護師が患者からの情報収集の際に療養支援ニーズを把握し、記録の記載・多職種への連携が図れているかを明らかにすることを目的とし、研究を進めていきたいと思ひます。

【手術室】

看護研究テーマ「ロボット支援下手術導入へのマニュアル作成に対する取り組み」
今年度よりロボット支援下手術が始まり、当院ではロボット支援下での手術は初めての導入です。看護師全員が知識や経験の及ばない領域であり、そのため、看護師全員がロボット支援下手術への知識を深め手順を理解する必要があります。必要物品、手順等の統一化したマニュアルを作成することで、看護師のストレス軽減、手術の質向上につながることを期待されると考えたため今回この研究テーマを挙げました。

【3階病棟】

看護研究テーマ「人工膝関節置換術（片側のみ）を受けた患者の早期離床に対する取り組みについて」
術後鎮痛剤などを用いて疼痛コントロールを行いながら、看護師の声掛けによって離床までの日数に変化があるのか、入院日数に違いはあるのかなど疑問を抱き、今回看護研究を行います。昨年度の人工膝関節置換術を受けた患者と、今年度8～11月において手術を受けた患者でどのような差が生じたのか、看護師への離床に対する意識づけを行いながら研究を進めていきたいと思ひます。

【4階東病棟】

循環器病棟では、モニター管理が重要である場面が多くあります。しかし、不適切アラームが多く、アラームを消音するための業務が増加し、作業効率の低下やアラームに対する意識の低下などあり、正確な判断を鈍らせることに繋がる事が懸念されます。モニターアラームの現状を把握し、正しくモニターを活用できているか確認し、日常業務の中で行える管理を習慣化する事が出来るように看護研究として取り組みます。

【4階西病棟】

看護研究テーマ「身体拘束軽減に向けた取り組み」
身体拘束使用の中で脳卒中患者が大半を占めており、その中でも胃管挿入中の患者に対し使用している事が分かりました。身体拘束基準はガイドラインに沿って作成していますが、マニュアルの活用ができずにいる事で身体拘束期間の長期化やせん妄が助長した事例もありました。身体拘束に対するアンケート調査を行い、適切な身体拘束開始、解除が実施できるフローチャートを作成している段階です。今回の研究を通し身体拘束件数と拘束期間が減少したか明らかにしたいと思ひています。

【回復期リハビリテーション病棟】

研究テーマ：消灯時間の延長に伴う患者の睡眠状況と看護師の意識の変化

当院は消灯時間が21時となっていますが、21～22時の間は、脳波上最も眠りに入りにくい時間で睡眠禁止ゾーンと呼ばれており、22時を過ぎることでスリープゲートが開き、急速に眠気が出現するとされています。また、業務にもゆとりを持って対応できない状況が、せん妄や不穏のリスクを高めます。消灯時間を22時に延長し患者の睡眠状況と看護師の意識の変化を調査します。

【HCU】

HCUに入院中の患者は、昼夜問わず様々なアラーム音が聞こえ、睡眠不足になりやすい。また、手術によるストレスや術中に使われる薬剤も原因となりせん妄を起こしやすい状況にあります。せん妄を引き起こすと、転倒リスクの増加、休息・活動が保てないことで回復の遅延をきたし、入院期間が長期化するなど退院後の生活にも影響を及ぼす可能性があります。当病棟ではせん妄予防対策が、個々の看護師の経験と判断に委ねられている傾向にあり、予防的対応は、誘発因子の除去が重要で、せん妄リスクのある患者に対し、せん妄アセスメントシートに沿ってカンファレンスを実施することにより、各々の経験・判断に左右されず、個別性のあるせん妄予防対策をおこなうことができるのではないかと考え、今回の研究を始めました。

【PFM】

急性期・回復期リハビリテーション病棟の機能強化に向けた入退院支援の推進と効果について、試行錯誤だった3年間の取り組み報告を行いたいと思ひます。2023年4月より地域包括ケア病棟を休床し、212床から183床へ減床しました。当院が地域から求められる「急性治療を担う病院」としての役割を遂行するためには、退院・転院などの出口管理が必要で、看護部主導の病床コントロールや入退院支援の推進に取り組まなければなりません。入退院支援のシステム構築や院内スタッフへの周知も含め、どのような効果が得られたのかを明らかにしたいと思ひます。



ラダーⅠ研修「在宅訪問を終えて」

3階病棟 堀之内

4月に在宅訪問施設研修を実施させていただきました。退院後の在宅訪問では、地域の多職種も参加するカンファレンスに参加することができ、地域・多職種連携について学びの多い研修となりました。様々な患者が入院されますが、入院時からその患者の先々を見据えて関わり、よりよい生活ができるよう、看護を提供していきたいと思えます。



ラダーⅣ研修「防災訓練」について (9/2)

講師：3階病棟主任 佐藤

手術室 小浦



今回の研修で感じたことは、きちんとした防災対策等の準備が備えられていても、災害に対する個人の意識が低い状態であると、防災対策が機能しない事、瞬時に防災対策を意識した行動ができないという事です。地震の時に「そんなに大した揺れではないから大丈夫だろう。」と、災害に対する意識の低さ・甘さが行動を遅らせて大惨事を招く可能性があり、常に最悪の状況をイメージした行動をとることの大切さを再認識することができる研修でした。



摂食機能療法部会と口腔ケア回診のご紹介

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 回復期リハビリテーション病棟師長 福永

摂食機能療法委員会では、3食経口摂取ができない患者さんに対し、セラピスト・看護師が口腔ケアやリハビリを提供することで加算をいただいています。嚥下障害のある患者さんが入院された時には介入依頼をお願い致します。

また、口腔ケア回診では、毎週水曜か木曜に鹿児島大学歯学部医師による回診を行っています。回診を始めて10年程経過していますが、皆さまのご協力により口腔内衛生が維持できているとお褒めの言葉をいただいています。口腔ケアは全身に影響を及ぼすと言われており、入院期間だけでなく健康寿命を延伸していくためにも必要なケアです。しかし、看護師のケア優先度はまだまだ低く個人差もあるため、今後も回診を通して口腔ケアの重要性をお伝えできればと思っています。手術前や抗がん剤治療前、骨粗鬆症内服薬（BP製剤）、口腔内汚染、人工呼吸器装着中など、対象の患者さんがいましたらご相談ください。



第26回 褥瘡学会学術集会に参加して（9/6～9/7）

HCU 石神

今年度、病棟内の褥瘡発生を前年度より減らしたいと、褥瘡対策委員として褥瘡予防に力を入れています。褥瘡予防について新たな知識を得たいと学会に参加させて頂きました。

褥瘡予防において重要なポジショニングの自立度の評価について、今までは動作能力があるかの評価は行っていたが、「動作能力」と「管理能力」の2軸において評価することが重要であると学びました。HCUでは褥瘡のリスクが高い患者が多いため、管理能力も評価し、看護計画に反映することによって、さらに個別性のある看護を提供できるようにしたいと思います。そして、今回の学びを勉強会として病棟スタッフへ還元していきたいと思います。



当院は、Instagramを開設しています。
地域の中核病院として、医療活動や、お知らせをお届けしています。
皆様ぜひ、登録をお願いします!!



InstagramQRコード



マイブーム



回復期リハビリテーション病棟 新山

私のマイブームは、ドライブです。
好きな音楽を聴きながら、いつもと違う場所にドライブするのは、いい気分転換になります。最近は休みの日に友達や家族を誘って、美味しいものを食べに行ったり、四季折々の自然を楽しむことができる場所などに出かけることが楽しみの一つです。そのためにInstagramでドライブスポットや美味しそうな飯屋さんを調べ、次の休みに出かける場所を考えることも、日々の小さな楽しみです。おすすめの場所などありましたら教えていただけると嬉しいです。



編集後記

皆さんはどのように、職場の仲間とコミュニケーションをとっていますか？
私は、研修の中で取り組んだことをきっかけに、家族や職場の仲間へもソーシャルスタイル診断をしてもらいました。

知る事の面白さはもちろん、コミュニケーションや人との関わり方のヒントが得られますよ(^-^)。ぜひ、試してみてください♪
松下

